

平成 30 年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	宮古	学校名	宮古市立第一中学校	T E L	0193-62-4209
------	----	-----	-----------	-------	--------------

確かな力の定着を目指す「学力向上プロジェクト」

【今年度の目標】

- 1 学力検査において各学年、各教科ともに県平均に達するようにする。
- 2 各教科における正答率で、県比70%未満の層の減少を目指す。
- 3 児童生徒質問紙「授業内容がよくわかる」の肯定的回答(1番2番)を各教科とも前年度を上回る。(数学、理科については70%を超える。)

【組織的な対応を図るうえで工夫した点】

- 1 学校全体での組織的な取組「学力向上プロジェクト」
 - (1) 校内研究で、「学力向上プロジェクト」を今年度も継続し行い、「課題設定の工夫」「学習課題を解決するための学習活動」「振り返りの工夫」を中心とした授業改善を行った。
 - (2) 諸検査のデータ分析に基づいた授業実践の推進を図った。個人研究、教科部会の充実、相互授業参観、小中連携による授業づくりを行った。
 - (3) 生徒指導を充実させることにより、学力と学習意欲、態度の向上を目指した。学習意欲や必要性に関わる生徒・保護者への啓蒙活動を強化した。
- 2 各学年・各教科・担任等による取組
 - (1) 定期テストをはじめ日常の学習で、「覚えた」「わかった」「できた」を意識させた。
 - (2) 各教科の授業時間内に、小テスト等を行うことで、身につける学習の習慣化を図った。
 - (3) 終学活等を利用し、英単語の復習や数学の基本技能の習得を図った。

【具体的な取組】

本校では、学力向上の具体的な方策(学力向上プロジェクト)として「授業力向上プロジェクト」「家庭学習改善プロジェクト」「学習規律改善プロジェクト」の3つを立ち上げ、学力向上に取り組み基礎・基本が確かに定着した生徒の育成に継続的に取り組んでいる。

1 「学力向上プロジェクト」

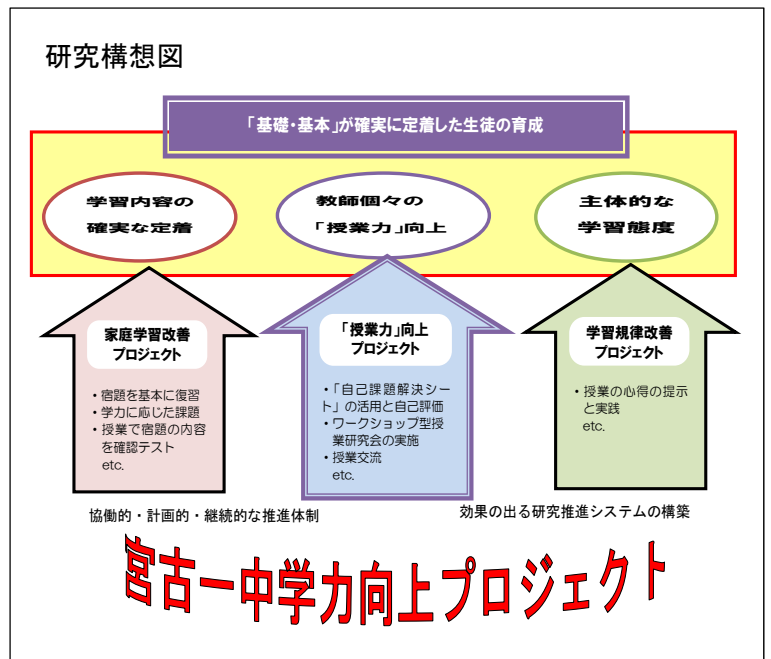
(1) 授業力向上プロジェクト

① 教科部会の充実

- ・ 教科研究計画の策定～年度当初に教科部会を開き、以下の内容で研究計画を作成し、教科ごとの共通理解と今年度の教科運営の見通しを持たせた。

〈教科部会でのおもな確認事項〉

- ア 県学調、全国学調、中1英語確認調査、CRT、新入生学調等のデータから読み取れる現状と課題
- イ 教科として育てたい生徒像



ウ 各学年の目標及び具体的取り組み（数値目標を入れる、正答率〇%、質問紙調査でよくわかる、だいたいわかるの割合が〇%など）

- ・ 長期休業中に前の学期の反省をおこない次の学期の計画・修正に取り組んだ。

② 個人研究テーマの設定および実践

- ・ 教科部会を受けて、各個人で研究テーマを設定し、年間を通しての指導内容および学期ごとの指導内容を確認した。1学期終了時に成果と課題を明確にして、2学期の授業改善に備えた。

個人研究テーマ

教科	氏名	設定テーマ
国語	阿部 純子	「読む力」を高めるための国語科学習の展開
	小野寺 浩二	グループでの対話を生かした授業の工夫
社会	桑島 秀則	視聴覚教材を活用し、より分かりやすい資料提示を目指した授業づくり
	田澤 佑亮	より豊かに生きるための社会科の授業 ～知識をもとに、自分の考えを表現する～
数学	杉浦 望	深い学びにつながる授業の+1問
	宮田 直弥	「適用問題」と「振り返り」による、主体的な生徒の育成
理科	阿部 貴志	小テスト・単元テストを活用した、基礎基本の定着
	宮田 昭平	対話を通じた課題解決型の授業づくり
英語	佐藤 裕子	効果的なグループ学習を取り入れた課題解決学習の指導法
	高橋 春香	言語活動を取り入れた課題解決型の授業実践
	野崎 正暢	英語を楽しみ、仲間を認め、積極的にコミュニケーションを図る生徒の育成
音楽	千葉 徳子	自分なりの想いや意図をもって音楽表現の工夫をし、歌ったり、楽器の演奏をしたり、音楽を創ったり、鑑賞を深める授業づくりの工夫
美術	石川 みどり	「やるべきこと」を明確にし、「やりたいこと」「やれること」を生徒自身が考え、実現できるように授業環境を整える。
保健体育	金子 友恵	・ 互いに声をかけ合い意欲的に運動する生徒を育成する授業づくり ・ 個々の基礎体力の向上もはかる 及び視覚教材の活用
	鈴木 大地	生徒個々の体力・技能向上を図るための授業づくり
	北村 真智子	働くための必要な基礎体力の向上をはかり、意欲的に運動する生徒を育成する授業づくり
技術	佐々木 寿麻	活きた技能と知識の習得～実生活に根差したもののづくりの授業～
家庭	佐々木 美智子	実践的・体験的な学習活動を通して、生きた経験として生活に役立てることのできる授業づくり
特別支援	大程 朝子	社会自立に向けた生きる力の育成 ～キャリア教育の視点から～

③ 「課題設定の工夫」「振り返りの工夫」を中心とした授業改善

「いわての授業づくりの3つの視点」の共通理解と実践研修に努め、授業力の向上を目指すために、授業の中で「課題を解決するための学習活動」と「振り返りの工夫」を意識して取り入れていくことを確認し、実践している。



ア 「課題を意識した学習活動」

- ・生徒の多様な考えを広く交流するために、自分の考えを発表したり、グループやペアで交流する活動を意識的に取り入れている。

イ 「振り返りの工夫」

- ・振り返りシートを活用し、毎時間記入させる。課題を記入し、終末2分程度文章を書かせる時間を設定する。
- ・学習プリントの最後に、振り返りのスペースを設定し、できたこと、わかったこと、疑問に思ったことを記入させる。

日付	単元名	評価	その授業で分かったこと・考えたこと・疑問に思ったこと・感想	検印
10/12	導入	B	今日は、図形についてで、今まで図形の内容がよくわかって、楽しかった。	5
10/16	内角の和	A	多角形の内角の和について調べた。今日は、内角の和の求め方について、よくわかった。	5

授業振り返りシート

④ 1人1授業の取組～拡大校内研を活用した授業実践

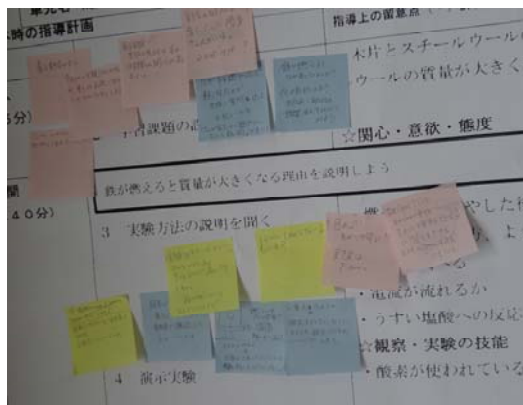
7月10日と11月2日に1人1授業の拡大校内研究会を実施した。第1回目の7月には、おもに、国語・数学・社会・理科・英語と特別支援の授業と保健室経営を中心に授業研究会を実施し、第2回目の11月には、技能教科の授業研究会を行った。当日は、「学校へ行こう Day」とし、宮古地区の中学校教員のみならず、学区の小学校、高校そして保護者にも広く呼び掛け、授業公開を行った。

ア 第1回拡大校内研究会（7月10日）

第1回は、国語、数学、社会、理科、英語の授業に加え、特別支援と保健室経営も加えた、7分科会を設け、研究会を行った。授業は午後の2コマを提供し、全員が授業を公開する形がとられた。参観の視点は、①個人課題に沿った、授業改善の工夫がなされているか。②課題設定、授業の振り返りの工夫が見られたか。③その他の改善点と設定し、ワークショップ型授業研究会を行った。



2年 数学の授業より



ワークショップ型授業研究会より

イ 第2回拡大校内研究会（11月2日）

第2回は、音楽、保健体育、美術、技術、家庭の5分科会を設け、研究会を行った。参観の視点や、研究会の方法も第1回と同じ方法をとった。

ウ 拡大校内研究会の成果と課題

《成果》

- ・全教科の授業公開を進めることで、教師の教材開発の意欲が著しく高まった。
- ・日頃から相互参観を実施しているので、生徒は普段と変わらない、積極的で、集中して取

り組む姿が見られた。

- ・教科内での交流、他教科との交流など、教師間で互いに学び合う機会が増え、組織として学力向上に取り組む体制ができた。

○課題・教科部会の運営方法について、他校の実践などを参考にしながら、本校の実践に適したものを検証していく必要がある。

- ・授業の中で、一部分だけでも統一の手法を用いるなど、教科間の交流をより深めるための手法を考察していく必要がある。

(2) 家庭学習改善プロジェクト

① 家庭学習改善の取組としては、家庭学習ノート（自主学習）のほかに各教科で授業と連動した課題を曜日ごとに出题している。生徒に配布する週予定表に内容を細かく記載することで、生徒の見通しも立てやすくなっている。授業内容の定着をねらいとしているが、予習的な要素としても家庭学習が活用されている。

② 定期テスト取組期間には、学区の小学校と連携し、小中合わせた「ノーメディア期間」の取組も行われている。

(3) 授業規律改善プロジェクト

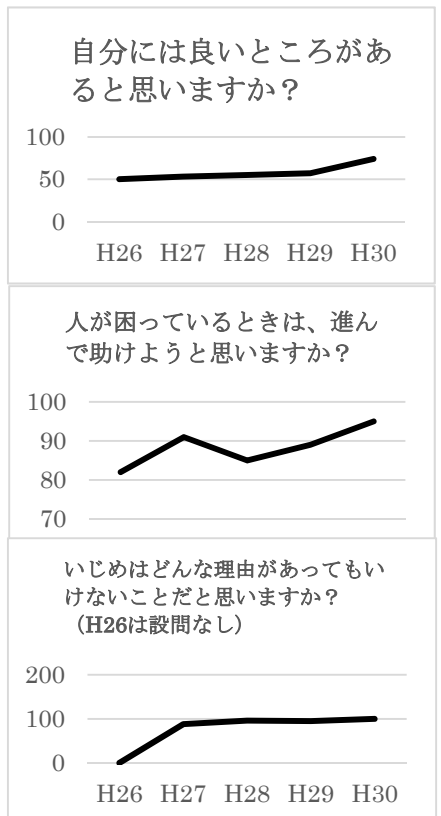
前年度の生徒の実態やアンケート等から、年度ごとに、授業規律にかかわる「授業の心得」を教室や特別教室に掲示し、全校で共通の指導を行った。また、指導部の重点方針の「挨拶・時間・清掃」を受けて、始業終業の挨拶や二分前着席など、学習の5観点について、生徒会学習委員会が中心となって、点検活動を行っている。

【授業の心得】		
準備	①	2分前着席・道具の準備
	②	心を込めて「お願いします」
活学 動習	①	私語のない授業
	②	「聞く・話す・書く」の切り替え
心が	①	互いの考えの尊重
	②	文末まで話す

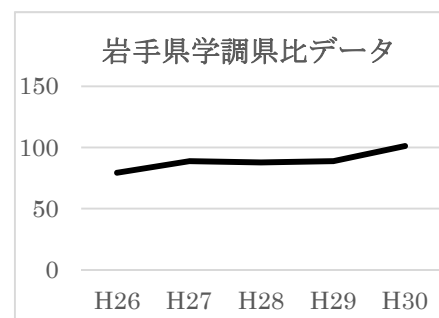
2 生徒指導と関連させた学力向上

(1) 生徒の変容

本校では、「自立する生徒・自立しようと努力する生徒を育てるための生徒指導」を目標として生徒指導を行っている。教師が生徒に寄り添い行動したり、ボランティア活動への積極的参加、生徒が主体的に行動できる行事の設定など、生徒指導部を中心に生徒指導の充実が図られてきた。その成果もあり、生徒の気持ちに変容が現れてきている。岩手県学習定着度状況調査の過去3～4年における生徒質問紙の設問の中で、「自分には良いところがあると思いますか?」・「人が困っているときは、進んで助けようと思いますか?」・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか?」という自己肯定や他者に対する思いやりを計る設問に対し、1・2番の肯定的な回答をした生徒の割合を比較してみると、グラフで示されたように、年々向上しており、生徒の心が確実に育っていることが伺える。



岩手県学習定着度状況調査における5教科の県比の平均値を比較してみると、同じように年々向上していることがわかる。生徒の心の変容と、学力が連動していると一概に言い切ることができないかもしれないが、学力向上を図るうえで、生徒の心を育てるための生徒指導を充実させることは必要不可欠な事といえるだろう。自らの学力を向上させるための生徒たちの意欲を喚起するためにも、学校生活を充実させることで、生徒たちの何事にも主体的に臨む心を育てていきたい。



(2) 生徒指導の新たな試み～ネット・スマホ等の使用について～

生徒指導の新たな試みとして、本校では7月4日に「宮古地区内中学校生徒会代表によるネット・スマホ等の使用に関する意見交換会」を行った。

この回のねらいは、急増するインターネットやスマホなどを介したいじめ・事件などの問題に対し、きちんとした中学生なりのルールを設けることで地区内の生徒たちが主体的に生活を向上させる機会とすることである。

意見交換会には、地区内各校の生徒会代表や、PTA、教育関係者、マスコミなど計170人ほどの方々が来校し、生徒たちの意見交換会の開催を見守りました。最初に「ネット・スマホの使用の現状と課題」として、これまで起きた関連事件や、県内のスマホの使用時間などを生徒に提示し、ルール作りの必要性について再確認した。

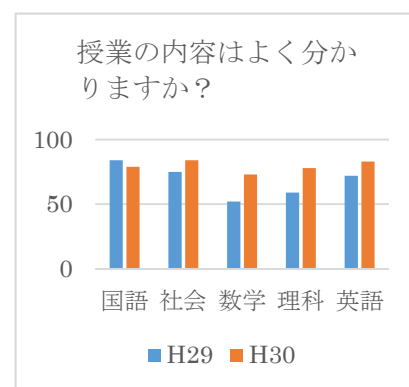
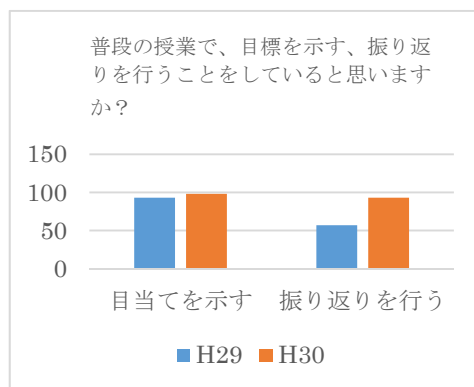
生徒たちの討議からは、ルールの策定について前向きな意見が出され、「誤解を招くことは絶対書き込まない」・「安易に情報を信じ込まない」などの意見の他に「スマホの使用時間は学習時間の半分」など、自分たちの日常生活とスマホ使用を上手に共存させていく手立て等も出され、それぞれが自分の生活を見直す場となった。



【検証結果】

H30 県学調結果

	県比	市比
国語	101.2	103.6
社会	100.0	105.4
数学	102.4	113.6
理科	97.7	107.4
英語	104.5	106.2



- ・理科が100を下回ったものの、概ね達成できた。
- ・正答率70%未満の割合ほどの教科も減少している。特に社会においては昨年度82%だったものが、67%となった。

【成果と課題】

《成果》

- ・目標として定めていた、数値的目標は概ね達成することができた。
- ・学力向上のための手立てが教職員間で共通理解され、授業力向上に向けた取り組みができた。
- ・学習以外の活動にも意欲的に臨む生徒が増え、地域の活性化につなげることができた。

《課題》

- ・全体としての数値的なものでは達成できたものの、数学・社会においての上位層と下位層の開き、数学においての20人以上の無答数が出たことなど、個に応じた、細やかな配慮の必要性が明らかとなった。今後、全体としての目標を定めながらも、個に着目した別の視点からの検証も必要となる。